

「多紀家門人録」。多紀元孝・元恵・元簡・元堅の門人録がある。第10章は「幕府医官岡田昌春とその家伝文書」。

以上、目次順に内容を示したが、本書のすべてに目を通し、熟読し、記憶に留めることは困難と言っただけであろう。情報が膨大過ぎる。しかし、この分野の事項を調べるには恰好で有用な事典と言いにふさわしい書である。また、目次を眺め、適当に頁をめくって興の向くまま拾い読みするのもいいであろう。必ず何かしら新しく得る知識が詰まっている。実際、評者はこの書を何度開閉する動作を繰り返したかわからない。そのたびに新知識を得たものである。以上がいまだ全部熟読に

及ぶことのできない評者の偽らざる感想であり、読後感は一生涯書けそうにもない。

本書は著者が運営協議員を務めている公益財団法人 武田科学振興財団 杏雨書屋の刊行になる非売品(限定450部)であるが、本会に所属する研究者・篤志家であれば、同財団に問い合わせれば受贈は可能であろう。同財団に問い合わせの際は日本医史学会会員であることを言い忘れないで欲しい。

(小曾戸 洋)

[公益財団法人 武田科学振興財団, 〒541-0045 大阪府大阪市中央区道修町2丁目3-6, 武田科学振興財団 杏雨書屋, 2022年3月, A5判, I: 770頁, II: 778頁, 非売品]

書籍紹介

隈部敏明(文)・梶原明彦(絵)著

『伝染病に挑んだ人々～予防接種秋月物語～』

本書は、秋月藩における天然痘に対する予防接種＝種痘活動を紹介した絵本である。江戸時代に天然痘(痘瘡)が蔓延しておりそれを恐れた民衆の様々な風習があったこと、秋月藩の八代目藩主・黒田長舒の藩政と大庄屋・天野甚左衛門の活動、そして彼らの支援を受け藩医となった緒方春朔による人痘種痘活動を描いている。形式は総ルビの絵本であり、小学生にも分かるように配慮がなされているが、特定の人物の偉人伝の域に留まらない内容になっており、大人が読むに十分に堪える作りとなっている。

ここで留意したいのが、本書の刊行が単に「絵本という形で児童・生徒や一般の人にも分かりやすく」という意図のみによるものではない点である。

本書の発行元は「予防接種は秋月藩から始まった」キャンペーン推進協議会であるが(会長:坂口良介, 編集委員長:富田和英), 同協議会の推進幹事団体は緒方春朔顕彰医会・天野甚左衛門顕彰会・秋月郷土館友の会であり、これら諸会は市内各所と連携し長年の顕彰活動を行ってきている。

その地道な活動が同書の刊行につながったと言えよう。加えて絵本制作にあたっては、朝倉市秋月博物館・朝倉市立秋月中学校・同秋月小学校に時代考証や校正の協力を得ており、また制作資金の支援として、朝倉市や甘木ロータリークラブからの助成金に加え市民からの寄付金を得ている。

地方財政の悪化や高齢化などの地域社会の問題、学校教諭の繁忙化などにより、郷土史・地方史研究を取り巻く環境が悪化の一途を辿っており、医学史・医療史も含む日本史諸分野の考究にも徐々にその影響が出始めている。そのようななかで、このような地道な活動が長期間に渉り継続的に行われてきたことと、そして市民レベルでの協力を背景にその成果として本書が刊行されたことに、深い敬意を表したい。

(松村 紀明)

[「予防接種は秋月藩から始まった」キャンペーン推進協議会, 2022年2月, B5横判, 32頁, 非売品]